

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1019
施設名	たまがわみんなの家
施設所在地	世田谷区玉川3-39-22
法人名	社会福祉法人つばさ福祉会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
年長児クラスでは、子どもたちに自然の中で主体的に遊び、発見したり試したりする経験を保障したいと考え、「自然」をテーマにお泊りキャンプを実施した。  
事前の下見遠足で川や山などの自然環境に触れる中で、「魚を探したい」「カエルを見つきたい」「船を浮かべてみたい」など、子どもたち自身から自然の中でやってみたいことが多く挙がった。都会で生活する子どもたちにとって、自然環境の中で継続的に遊び込む経験は貴重であり、実体験を通して自然への興味や探究心を深める機会になると考え、本テーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

**【事前活動】**  
下見遠足で自然環境に触れる、川や生き物について話し合う、図鑑を見る、自然の中でやってみたいことを考える、ペットボトルや身近な素材を使って船づくりを行う  
**【お泊りキャンプ当日】**  
川遊び・船を浮かべて乗る、生き物探し、自然散策、調理体験

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)  
下見遠足で実際の川を見た子どもたちから、「船を浮かべてみたい」という声があがったことをきっかけに、ペットボトルやテープ、紐など、船づくりに使える素材を用意した。子どもたちは、「どうしたら浮くかな」「流れたらどうなるかな」などと話しながら、友だち同士で試したり工夫したりしながら制作を進めていった。

また、生き物への興味が深まっていたことから、魚やカエル、虫などについて調べられる図鑑を用意し、活動前後にも自然や生き物への関心が継続するよう環境を整えた。

活動にあたっては、子どもたちが自然環境の中で継続的に遊び込み、川遊びや自然探索などの体験を十分に行えるよう、宿泊施設を利用した。また、自然豊かな環境へ安全に移動し活動を実施するため、中型バスを活用した。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

下見遠足では、川の流れや石、水の冷たさなどに実際に触れながら自然環境への興味を深めた。その中で、「ここに船を流したい」「魚いるかな」などの声が聞かれ、自然の中でやってみたいことを子どもたち自身が考えていった。

園に戻ってからは、ペットボトルや身近な素材を使った船づくりを行った。「どうしたら浮くかな」「水が入らないようにしたい」など、友だち同士で相談したり試したりしながら制作を進めた。

お泊りキャンプ当日は、川遊びを中心に活動を行った。魚やカエル、虫などの生き物を探したり、自分たちで作った船を実際に川へ浮かべたりしながら、自然の中で主体的に遊ぶ姿が見られた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

川遊びでは、「石の下に魚がいるかも」「こっちは流れが速いね」など、自然環境に目を向けながら遊ぶ姿が見られた。船を浮かべた際には、「流れが速いと進むね」「ここだと止まっちゃった」など、実際に試したことで気づいたことを友だち同士で共有する様子も見られた。

また、生き物を見つけた際には、「そーっと持つんだよ」「びっくりしちゃうよ」など、相手を意識しながら関わろうとする姿もあった。

保育者は、「なんで止まったんだろうね」「どこに魚がいそうかな」など、子どもたちの気づきや発見に寄り添いながら、一緒に考える関わりを意識した。答えを一方向的に伝えるのではなく、子ども同士の対話や試行錯誤が続くよう環境を支えていった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは、実際に自然環境へ身を置くことで、水の流れや生き物の動き、自然の変化などに自ら気づき、繰り返し試したり確かめたりしながら遊びを深めていた。事前の下見遠足からお泊りキャンプ当日まで、期待や興味が継続していたことで、活動が単発ではなく探究的な経験につながっていたと感じた。

また、自然の中では、子どもたち同士で「どうする?」と相談したり、気づいたことを共有したりする姿が多く見られ、対話や協同性も育まれていた。保育者がすぐに答えを伝えるのではなく、一緒に考えたり試したりできる環境をつくることで、子どもたち自身の発見や探究心につながっていくことを改めて感じた。